第3期 中津市版 まち・ひと・しごと創生総合戦略　概要

～住みたい、帰りたい、行ってみたい～

「暮らし満足No.1のまち」中津

◆あらゆる主体との連携　◆市民や団体等との対話・協働
◆定住自立圏など広域的な自治体間連携　◆SDGsの視点

【計画期間】2025（令和7）年度～2029（令和11）年度（5年間）

【ポイント】「なかつ安心・元気・未来プラン」の中期的なアクションプランとして、人口減少の抑制、雇用の確保、交流（関係）人口の拡大など地方創生に関係する施策に重点を置いて取り組む。

安心づくり

～誰もが生き生きと安心して暮らせるまち～

①こどもを産み育てやすい環境づくり
- 子育て世帯の経済的負担軽減などによる支援
- 出会い・結婚の希望実現のための支援

②地域包括ケアシステムの深化と健康づくりの推進
- 病診連携、医療介護連携の推進
- 高齢者の孤立をなくす見守りネットワークの拡大
- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の拡充
- 予防事業・体操教室やスポーツを通じた健康づくりの推進

③地域コミュニティの維持・活性化
- 地域の実情に応じた生活機能や拠点機能の確保
- 地域住民が主体となった活動の支援

④災害に強いまちづくり
- 自助・共助・公助のバランスが取れた災害に強い地域づくり
- 情報伝達手段の充実及び情報共有の円滑化

⑤誰もが活躍できる多様性のある地域づくり
- 誰もが活躍できる地域づくり
- 多文化共生に向けた交流事業の推進
- 多様な価値観を尊重する地域づくり

数値目標
- ◆生活満足度（※1）　2029年に 7.0
- ◆お達者年齢（※2）　2029年に 男性 81.58歳　女性 85.39歳

※1 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」より引用
※2 介護保険の要介護2以上の認定を受けていない方を健康の状態とみなして大分県が算出している年齢。

元気づくり

～モノや人が行き交う元気のあるまち～

①地場企業への支援及び起業・創業への支援
- 地場企業の育成と人材確保支援
- ワンストップ窓口やセミナー等による起業・創業支援
- 商店街の活性化支援と城下町周遊促進

②企業誘致の促進
- 女性が働きやすい、若者が働きたい企業誘致の推進
- 企業立地環境の整備・充実

③農林水産業の振興
- 農業の担い手確保と生産性向上
- 水産業の担い手確保と生産性向上
- 循環型森林整備の推進及び経営放棄林の解消
- 「九州・中津ブランド」の推進など地域産品の高付加価値化

④交流人口・関係人口の拡大
- 観光資源の魅力向上と情報発信
- 宿泊・体験型観光やインバウンド誘客の推進

⑤移住・定住促進
- 移住支援体制の充実と情報発信
- 若者のUターン・転入を促進する支援の拡充
- 観光と移住がつながる仕組みづくり

数値目標
- ◆人口社会動態　2029年に 社会増を維持　（直近5年間平均）
- ◆生産年齢人口　2029年に 約4.5万人
- ◆企業誘致件数　2029年度まで 5年間累計 30件
- ◆新規雇用創出数　2029年度まで 5年間累計 420人

未来づくり

～新しい時代にこどもや若者の未来を開くまち～

①「学びの里なかつ」の推進
- 社会教育施設を中心とした幅広い「学び」の機会創出
- ICTやAIを活用したこどもの可能性を拡げる教育
- 郷土愛や職業観の醸成
- 文化財等を活用した文化・芸術の拠点づくり
- 若者の希望を応援するまちづくり

②環境共生都市なかつの実現
- みんなでつくる「きれいなまち中津」
- 脱炭素社会、循環型社会の構築

③交通・物流ネットワークなどの都市基盤の整備
- 中津を核とした交通・物流ネットワークの充実
- 持続可能な公共交通網の構築

④デジタル技術を活用したWell-beingの向上
- AIなどデジタル技術を活用した住民サービスの向上
- デジタル端末に馴染みの薄い層に対するデジタルディバイド対策

数値目標
- ◆若年人口回復率（※3）　100%以上維持　（2030年国勢調査）
- ◆幸福度（※4）　2029年に 7.0

※3 15～24歳の人口減少幅に対する25～34歳の人口増加幅の割合。国勢調査を基に算出。
※4 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」より引用

中津市の人口ビジョン（継続）
2030年 総人口 約7.9万人
2040年 総人口 約7.6万人
→ **2060年の総人口 約7万人**